

災害レベルに達した新型コロナウイルス感染症拡大による

医療の危機について

【新型コロナウイルス感染症重症患者受入医療機関】

宇治徳洲会病院	病院長	末吉 敦
京都大学医学部附属病院	病院長	宮本 享
京都府立医科大学附属病院	病院長	夜久 均
京都第一赤十字病院	病院長	池田栄人
京都第二赤十字病院	病院長	小林 裕
京都医療センター	病院長	小池 薫
京都市立病院	病院長	黒田啓史
京都桂病院	病院長	若園吉裕
康生会武田病院	病院長	武田 純
医仁会武田総合病院	病院長	三森経世
洛和会音羽病院	病院長	二宮 清
三菱京都病院	病院長	小野晋司
京都岡本記念病院	病院長	高木敏貴

1. 京都府においても新型コロナウイルス感染症の第 5 波の爆発的な感染拡大がとまらず、8 月 20 日に緊急事態宣言が適用されました。会見で西脇京都府知事は「災害級の危機である」と述べられていますが、このままでは本年春の第 3・第 4 波において関西圏において経験したように、また現在首都圏で数多くみられつつあるように、適切な医療を受けることができない自宅療養者のうち死亡される事案が京都府においても発生しかねない災害レベルに達しています。
2. この災害級の医療の危機に対応するために、新型コロナウイルス感染症重症患者受入医療機関では、新型コロナウイルス感染症重症例の治療のために集中治療室（ICU）の病床を使用せざるを得ません。このため、治療後に ICU における管理が必要な高難度手術や侵襲度の高い治療（たとえば心臓血管外科手術や生体肝ないし生体肺移植、難易度の高い食道がん手術あるいは特殊な抗がん療法など）については、緊急性の高いものを除いてほとんど停止を余儀なくされつつあります。

3. 救急応需困難例が多発しており、脳卒中や循環器病をはじめとする救急医療やがん治療などはすでにかなり制限を受けており、かかりつけ患者が急変した場合であっても必ずしも入院できない事態とまでなっています。

4. 【京都府民の皆様へのお願い】

救わなければならない命を救うために、感染の明らかな誘因とされている行為（屋内屋外を問わず複数名での飲食、マスクなしでの会話）を何卒回避していただきますようお願い申し上げます。是非自分を守り、家族や大事な人を守る行動をとってください。

感染の明らかな誘因とは考えられていなかったデパートやスーパー等での買い物のような日常の外出の後にも感染の発症がみられるようになってきています。8月20日には全国知事会から政府にロックダウンが要請されましたが、外出そのものを可能な限り少なくしないと感染拡大は止まりません。

新型コロナウイルス感染症対策分科会の尾身茂会長の提言にありますように、感染を抑えるための最低限の目標は昨年（2020年）の第1回緊急事態宣言時のような人流の削減です。

できる限り外出を控えていただきますよう何卒ご協力をお願い申し上げます。